

## ■現状-3・再興へ

日本の伝統産業は、海外でその価値が再認識されるケースが増えています。また、現代の日本の産業をささえるハイテク技術は、伝統工芸のものづくりが基礎となっているものも少なくありません。職人の技術を生かした商品開発、デザイナーとのコラボレーション、販路の開拓、後継者育成・・・様々な取り組みが行われています。

### ●会津漆器技術後継者奨励金制度

会津漆器技術後継者訓練校へ従業員を派遣し、訓練校の実施する訓練を受講させた事業主に対し、その雇用する従業員に訓練期間中に支払った賃金の一部を補助。

### ●会津漆器使用拡大支援補助制度

市内の旅館、ホテル、飲食店、割烹、料亭等が業務用として会津漆器を購入する場合、経費の一部を補助。

### ●公共建築物建設経費1%漆製品予算化事業

全国でも屈指の漆器産地であることを、広く市民や観光客の方々にPRするため、市が公共建築物を建設する際に、その建設経費の1%を会津塗のパネルや壁画、建築部材等の経費に割り当て、漆を身近に感じるまちづくりを展開することを目的に、「公共建築物建設経費1%漆製品予算化事業」を平成8年度から実施しています。

### ●会津ブランドの促進

会津の優れた素材、技術等を活かし、会津でしかできない、本物にこだわった魅力ある地域産品を認定基準にもとづき審査を行い、「会津史・季・彩・再」地域産品ブランドとして認定するとともに全国に発信しています。多数の会津漆器が会津ブランドに認定されています。



### ●JAPANブランド育成支援事業

国内漆器産地においても卓越した「蒔絵」技術を有する会津漆器の特徴を生かしつつ、現代ヨーロッパの生活スタイルにマッチしたアイテム・形状・色彩・加飾等を具現化し、新しい技術を取り入れながらの商品開発。欧州の中でも特にフランスにおける市場開拓を図っています。平成16年度に創設され3年目を迎えました。

ブランド名の「BITOWA」は、究極の美を追究する職人の高い志「美とは」、美しさと日本(和)のアイデンティティ「美と和」から。



フランス「メゾン・エ・オブジェ」での「BITOWA」ブースの様

## ■現状-3・再興へ(2)

これからの時代には、それぞれの土地の風土にあった素材や、技術の活用がますます重要になってきます。会津の漆器産業も様々な時代のニーズに応えるべく、新技術や、商品開発に意欲的取り組みをしています。下記に具体例を紹介します。

### ●あかちゃん漆器「こめらっこ」

※会津漆器による子ども用食器セット

子どもにこそ、本物の美しさと質感に触れてもらいたいと願ってつくられた食器。天然木の命が手から伝わってくるような感触を大事にし、みずみずしい感性をそっと育ててくれるような「素朴な美しさ」を大事にしています。Do!KOMERA(ドゥ!コメラ)



### ●含漆UV塗料を製品化

「紫外線硬化型含漆合成樹脂塗料および秒速乾燥法」(特許番号2821110号)の特許を取得し「オリエンタルペキュリア」というこれまでにない含漆UV塗料を製品化。

これまでの漆の欠点であった、作業効率性や取り扱いの難しさなどを克服した画期的な塗料であり、これまでにない分野への漆製品の商品化を可能にしました。



### ●再生ペット樹脂使用会津漆器



福島県内で収集された廃ペットボトルから作られた再生ペツフレークを原料に使った食器類です。この食器は、電子レンジや食器洗い機に対応しており、福島県内の百貨店などで販売されています。



### ●伝統工芸士とNPOが作ったUD漆器

※UD:Universal Design

「楽膳」-RAKUZEN- は会津の伝統工芸士と、障がい者を支援するNPO法人の共同プロジェクトで生み出された現代漆器です。NPOを通して集められた使いやすさのアイデアをプロダクトデザイナーが機能と美しさを併せ持つデザインにまとめ、会津塗りの伝統技術を今に伝える職人の手によって製品化されました。



(黒) (朱)  
糸底をなくし底部に独自のカットを入れることで、安定感のある持ちやすさを表現



### ●家庭で、成型・焼成が可能な新素材「漆粘土」

平成13年(2001年)から福島県ハイテクプラザ会津若松技術支援センターが開発を進め、平成15年民間企業に技術委託手続きが完了し、製造、販売が行われている新素材「漆粘土」  
塗料としての漆の概念を覆し、手びねりなどで簡単にかたちを作ることが出来るので、漆を使用しての造形がより身近になりました。